様式３－①　２０２１年度水戸市研究指定校実施報告書

第二中学校区　施設分離型小中一貫教育に関する研究

学校名　第二中学校　三の丸小学校
五軒小学校　柳河小学校

目指す児童生徒像　　地域を愛し，笑顔を絶やさず，前向きに行動する児童生徒

研究主題　　地域を愛し，笑顔を絶やさず，前向きに行動する児童生徒の育成

１　主題設定の理由

第二中学校区は，三の丸小学校，五軒小学校，柳河小学校（一部は第一中学校へ進学）の３つの小学校が第二中学校に進学する３小１中の中学校区である。本中学校区ではこれまでに，教職員間では「小中夏季合同研修会」や「小中協働地区巡視」，「相互授業参観」など，児童生徒間では「先輩（中学生）から話を聞く会」などを実施し，児童生徒の実態を把握したり，情報を交換したりすることで，小中の連携を深めてきた。しかし，児童生徒の発達段階を踏まえた９年間を見通した取組であったかというと，不十分さを感じる面がある。各小中学校や地域の特性を踏まえた系統的で継続的な小中一貫教育を実践することが，本中学校区のこれからの課題であると考える。

また，本中学校区には日本遺産に登録されている弘道館や偕楽園をはじめ，歴史に関わる文化遺産が数多く存在し，児童生徒はこれらの文化遺産に囲まれて日々の生活を送っている。これらの文化遺産については，これまでも各小中学校ごとに，水戸まごころタイムにおいて，テーマを設定し，調査活動を通して理解を深めてきた。しかし，小中間や小小間において，互いの取組内容が十分に理解されないまま，小学校から中学校へと接続がなされていた。「めざす児童生徒像」にある「地域を愛し」を推進するためには，これらの文化遺産について児童生徒が幅広く理解し，自分たちの地域に誇りをもてるようにすることが大切であると考える。そのためにも，「知」「徳」「体」を基盤にし，「歴史（水戸まごころタイム）」を軸に各学校の取組内容を共有しながら，系統的で継続的な小中一貫教育を推進していく必要があると考え，本主題を設定した。

２　研究のねらい

「知」「徳」「体」を基盤にし，「歴史（水戸まごころタイム）」を軸とした系統的で継続的な小中一貫教育を推進し，次の四つのような資質や能力をもつ児童生徒を育成する。

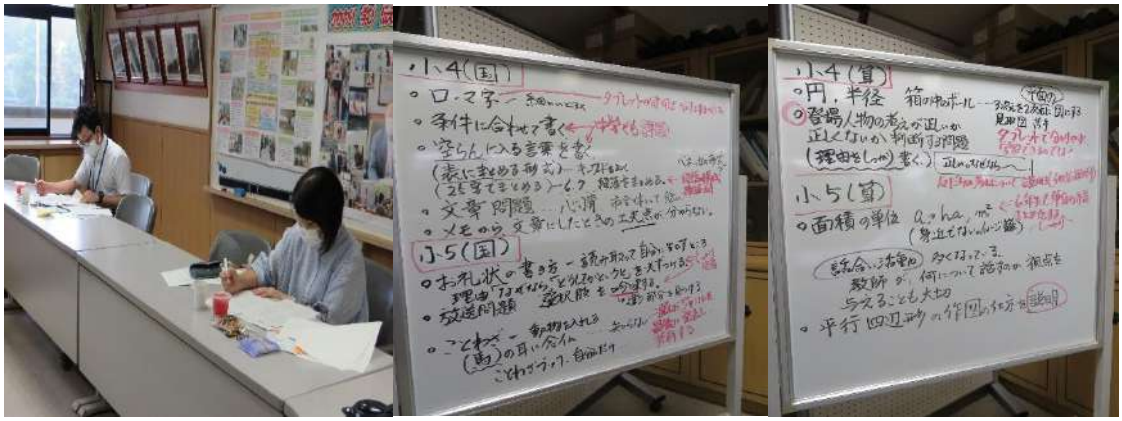
○　話をよく聴き，よく考える子供
○　あいさつができ，進んで働く子供
○　進んで体を動かす元気な子供
○　水戸の歴史を語れる子供

３　具体的な取組内容

(1) 知の部会

①　学びの診断（第４学年・５学年）の分析

４校で集まってテスト結果の分析を行うことにより，各学校における課題を明確にした。



②　中学校の各教科における課題の提供

「小学校～中学校の系統性を踏まえた学習を目指して」

③　小小連携　相互授業参観

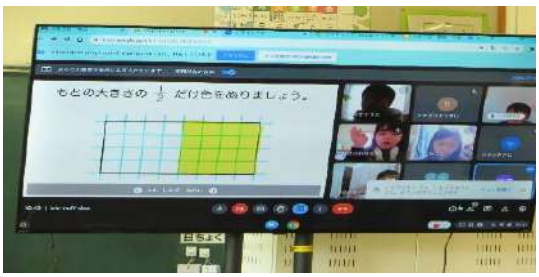
◎第２学年　国語「お話の作しゃになろう」　※同じ指導案で３校で学習を実施した。

三の丸小　１０月２０日（水）

五軒小　　１１月　５日（金）

柳河小　　１１月３０日（火）

◎第２学年　算数「分数」　三の丸小　　２月１日（火）※オンラインを活用した授業



(2) 徳の部会

① ３校合同宿泊学習

【令和３年度】

令和３年６月１７・１８日　　３校合同での実施を計画

学校ごとの実施　　１７日　柳河小学校，五軒小学校　１８日　三の丸小学校

【令和４年度】

令和４年９月１３・１４日　　３校合同での実施を予定

② 小中合同あいさつ運動

中学生が朝登校前に各学校に立ち寄ってあいさつ運動を実施する。年２回の実施を計画する。令和２年度の反省から，実施に当たっては，参加生徒の人数が多くならないよう，１週間の期間を設定し，各クラス単位で取組むこととした。

実施予定	参加学年
１０月	第３学年
１月	第２学年

令和３年度は，実施することができなかったが，学校単位での「あいさつ運動」の様子をホームページで紹介した。

③ 「いじめ解決フォーラム」（オンライン会議）

【令和２年度】　１２月実施

テレビ会議を活用し，各校の「いじめ解決フォーラム」で実施したことを紹介し合う。

【令和３年度】

令和２年度の実践を生かし，いじめ解決フォーラムでの各校でのスローガンを掲示し，紹介する。

第二中学校	「SNS　泣かせるよりも　笑わせたい ～私たちは『思いやり』を送ります」
三の丸小学校	手をのばし　守ろう友情　なくそういじめ
五軒小学校	やさしいひとみ　いじめをなくす第一歩
柳河小学校	「ぼくはしない」少しの勇気で　変えていこう！

(3)　体の部会

①　体力テストの分析（R１，R３）

令和３年度の結果を４校の体育主任で分析し，課題の共有を図った。

②　握力・上体起こし・ボールスローの能力向上の指導（R１～R３）

令和元年度に体力テストの分析を行い，二中ブロックの児童・生徒に共通した課題の種目を強化するため，今年度まで継続して体ほぐしや主運動の中に強化するための運動を取り入れてきた。

【二中の体育教員による授業】

③　動画の共有による授業の実践

各学校で実践した体育の授業の動画を共有し，各学校で活用した。

④　二中体育教員の各小学校への出前授業（運動技能に関する指導）

中学校の体育の教諭が各小学校に赴き，出前授業を行った。

⑤　栄養教諭による食育指導

栄養教諭による食育の指導を行った。

【栄養教諭の食の指導】

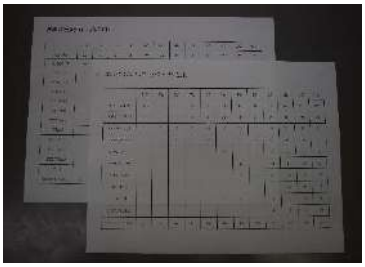
⑥　校内陸上記録会（６年生）の実施

今年度も小学校３校で同日に試走を実施する計画だったが，陸上記録会の中止により，各小学校ごとに校内での陸上記録会を実施した。

【校内陸上記録会】

⑦　共通の縄跳びカードの使用（R２，R３）

令和２年度から，冬季の縄跳びの運動で使用する縄跳びカードを小学校３校で共有して活用してきた。



【共通の縄跳びカード】

(4)　歴史の部会

①　各校における水戸まごころタイムの実施計画の確認

６月に，歴史の部会部員会を開催し，各校の水戸まごころタイムにおける地域学習の実施計画を確認し，日程調整と中学校教員による出前授業の位置付け及び方向性を整理した。また，アンケートを採り，前年度までの出前授業の反省及び改善点，要望等を集約した。

②　出前授業の内容検討

夏休み期間に，第二中学校社会科部員で出前授業の内容及び展開について検討会を行った。事前に集約したアンケート結果を生かし，第６学年児童が地域の歴史や第二中学校への進学に関心を高めることができる構成にすること，グループ活動や ICT の活用をしながら児童が主体的に学習に取り組むことができる展開を重視して検討を実施した。

③　中学校教員による出前授業の実施

以下の日時で，中学校教員による出前授業を実施した。授業は，各校とも中学校社会科教員２名，小学校の各担任が補助に入って実施した。

・　９月３０日（木）	柳河小学校	６年１組
・１０月　８日（金）	五軒小学校	６年１組，６年２組
・１０月１５日（金）	三の丸小学校	６年１組，６年２組

授業では，各校とも「水戸城とその周辺にはどのような工夫があったのでしょうか。」と課題を設定し，それぞれの小学校区に見られる史跡や歴史の名残が見られるものを題材にした「お題」を，グループ毎に配付された資料から読み解いた。児童は，Google Jamboard を用いて資料から読み取ったことを整理しながら地域の歴史について学習した。

４　研究の成果と課題

(1)　成果

①　知の部会

・　相互授業参観を通して，昨年度まではあまり進まなかった小小連携を図ることができた。また，国語の研究授業を通して，児童の「書く力」を育成することができた。

・　学びの診断の分析により，各学校での課題が明らかになった。この分析を生かして課題を常に意識しながら，学習に取り組むことができた。

②　徳の部会

・　あいさつ運動に中学生が安全に参加できる具体的な方法を確認することができた。今後も，中学生の活力にも期待したい。

・　タブレット端末の活用について，学校間での見通しが立った。次年度からは，多様な交流を計画的に実施できる。

・　宿泊学習において，第５学年児童の交流を継続的に実施していく見通しを立てることができた。

③　体の部会

・　本年度の体力テストの分析により，二中ブロックとしての児童・生徒の体力の現状と課題の把握ができ，日頃の体育の指導内容の改善を図ることができた。また，体育の授業の動画の共有によって，教師の指導力向上を図ることもできた。

・　中学校教員による陸上競技に関する出前授業によって，児童が専門的な知識や技能を身に付けたり，小学校教員が指導力を向上させたりするよい機会となった。中学校教員にとっても，次年度入学してくる児童の実態を把握できる機会となった。また，陸上記録会が実施できなかったため各校ごとの校内陸上記録会となったが，児童が練習を通して心身共に成長できる機会となった。

・　栄養教諭による食育の指導を毎年継続して実施してきたことで，児童の食に関する知識や関心をより高めることができた。

・　縄跳びカードを共有することで，同一基準による活動や評価ができ，小小の連携が図れた。

④　歴史の部会

・　検討会や小学校の希望を踏まえ，児童が地域の歴史や中学校へ関心を高める授業を実施することができた。児童に対する事後アンケートの結果は,「あなたにとって，今日の学習の内容は関心のあるものでしたか」という質問に対して,「面白かった」「まあ面白かった」と回答した児童が約 96%,「今日の授業を受けて，水戸二中学区への関心は高まりましたか」という質問に対して,「高まった」「やや高まった」と回答した児童が約 92%だった。

・　各小学校の地域にある題材を取り上げたことで，児童が地域の歴史に関することを直に学習することができた。

・　児童が ICT を活用したり，問題解決的な学習，協同的な学習に取り組んだりしながら，中学校の授業に対する見通しをもつことができた。

(2)　課題

①　知の部会

・　新型コロナウイルス感染症の蔓延のため，予定していた学校間の交流は，当初の計画通り進めることは難しかった。コロナ禍での交流の方法も検討していく必要がある。

・　学びの診断の分析結果はただの分析結果で終わらせることなく，各学校での課題を学校全体で共有し合い，日ごろから課題を意識した指導を継続していく必要がある。

②　徳の部会

・　あいさつ運動時だけでなく，あいさつをこれからの生活の中で実践できるようにするために，スクールガードの取組や学校運営協議会の協議内容を共有し，地域と連携した活動へと広げていく。

・　学校だよりの他に，タブレット端末を活用し，動画による情報交換の場を検討していく。「あいさつ運動の様子」や「朝のボランティア」など，日常的な活動を紹介できるようにする。

③　体の部会

・　令和元年度から毎年度，二中ブロックの児童・生徒の体力の向上と健康のための実践を計画してきたが，新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった計画（陸上記録会，合同引渡し訓練，拡大学校保健安全委員会，等）が多く，特に体力の向上の面では体力テストの結果に成果として結びつけることができなかった。

・　今後，新型コロナウイルス感染症の終息が見られれば，中止となった計画を実践していきたい。

④　歴史の部会

・　出前授業で取り上げた学習内容は，年度を重ねるにつれて改善してきたが，難易度が高いため，授業者が変わることによって継続して実施していく困難さがある。

・　出前授業の事前，事後の学習を小学校でどのように展開していくか，より具体的な展望をもつことが必要である。また，中学校に入学後，学習した内容をどのように生かしていくかを検討すると，より意義のある活動になると考えられる。